

Melvin Mooney (1893-1968)

ムーニー粘度計やムーニーのひずみエネルギー関数に名を残したムーニーはカンザスシティで生まれ、ミズーリ大学卒業後シカゴ大学に進み物理学のPh. D. を取得した。その後U. S. Rubber Company (後のユニロイヤル) の研究所に職を得て、彼のゴムの研究が始まった。

最初の仕事は天然ゴムのレオロジー特性の研究で、応力と変形特性を解明するためにムーニー粘度計を開発した。ゴムのレオロジー研究の傍ら加硫ゴム特性に関する実験と理論的研究も行い、ゴムが非圧縮性を持つことを実験的に検証し、更にムーニーのひずみエネルギー関数を提案した。また、せん断力によってゴムの中に他のゴムが混入する現象はミクロンオーダーのレオロジー流動単位で生じることを明らかにし、晩年にはゴムの分子論的な研究も行った。そして、退職後も亡くなる直前までレオロジー学会に参加し続けた。

彼の趣味はオーケストラやカルテットでのピアノ演奏とテニスだった。シャイな性格だったがレオロジー学会で核戦争の脅威に対して核廃絶を訴える行動力も有していた。1936年Binghamメダル受賞。1968年Goodyearメダル受賞。1971年国際的ゴム科学の殿堂入り。

参考文献：ACS Rubber Division, "Vignettes from the International Rubber Science Hall of Fame (1958-1988)" (1989)

(株)ブリヂストン 中島 幸雄)



MELVIN MOONEY (1893-1968)